

2017年1月13日

株式会社博報堂

慶應義塾大学 SFC 研究所

博報堂と慶應SFC（社会イノベーション・ラボ） 産官学共同のイノベーションデカラ醸成プログラム

「五感留学」開講

～地域の生活者になって“生活者感性”を磨く～

第1回は、氷見市にて開催 「五感留学・氷見」3月4日～3月7日

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：戸田裕一）のイノベーション人材育成のための社会人教育機関「博報堂生活者アカデミー」と、企業や社会のイノベーションを支援するための専門組織「博報堂イノベーションデザイン」、慶應義塾大学 SFC 研究所「社会イノベーション・ラボ」（代表：玉村雅敏）は共同で、ひとりひとりの人間が本来持っている「生活者感性」を掘り起こし磨く独自の研修プログラムを開発いたしましたのでお知らせします。

私たちはふだん、社会に求められた役割や記号、組織の事情や都合…といった「衣」をまといながら、日々の活動を行っています。先行き不透明で、これからのモデルが存在しない現代。そういった時代に生きる私たちが、クリエイティブな活動や世の中を変えるようなイノベーションを志すとき、無意識にまよっている「衣」の奥底にある、「ひとりの生活者としての感性（生活者感性）＝創造性の源」を呼び起こし、磨きあげることが大切です。

本研修プログラムでは、ご縁もなく事前知識もない街の生活者になり、“もうひとつの暮らし”を営みながら、「生活者感性」を掘り起こし磨いていただきます。

第1回は、富山県氷見市（市長：本川祐治郎）と連携し開催いたします。

次のようなワークに取り組んでいただきます。

- 黒屋根の街並みにある家屋に住み、五感を刺激する豊かな生活現場に身をおいて生活する
- 地域社会が編み上げてきた生活文化や習慣、なりわいを体感する
- 地域の生活素材に触れ、他者との対話の中から自分を表現する創作物を作る

※インターネット・デバイスの使用は緊急時を除いて禁止です。

いつもと違う暮らしの五感を開きながら、「ひとりの生活者としての感性（生活者感性）＝創造性の源」を取りもどす。

この研修プログラムを通じて、自らの生活者感性を研ぎ澄まし、社会における新機軸やイノベーションを起こすきっかけにして頂ければと思います。「五感留学」は氷見市を皮切りに、日本全国にて、その地域のチカラを活かしたプログラムを開催してまいります。

本研修プログラムに関する問い合わせ：博報堂生活者アカデミー 星出（03-6441-6452）

報道関係者の問い合わせ：博報堂 広報室 竹本・西尾（03-6441-6161）

慶應義塾大学 SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ 横田・菅井（03-4590-0444）

五感留学

【開催日・場所】 <DAY1~DAY4> 3月4日(土)~3月7日(火) @富山県氷見市
<DAY5> 3月26日(日) @東京都文京区(酢飯屋)

【定員】 10名程度

※ お申込み方法は次頁以降をご参照ください。主に都市部で働く方を対象にしています。

※ 想定参加者：事業開発、商品開発、サービス開発、マーチャンダイザー、
日々の仕事に追われて現状を打破したい人など

【企画実施】 株式会社博報堂 (博報堂生活者アカデミー、博報堂イノベーションデザイン)

【監修】 慶應義塾大学 SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ

【協力】 氷見市、氷見市みらいエンジン、氷見市地域おこし協力隊、酢飯屋(岡田大介)

【参加費】 「①研修費(4万円)※1」+「②その他実費※2」

※1 研修費は企画実施機関の株式会社博報堂にお支払いください。

今回(第1回)は試行実施のため特別価格です。

※2 その他実費として、宿泊費、交通費等がかかります。

宿泊費は、3泊4日で1.5万円(税込)を予定しています。

別途、株式会社南海国際旅行をご紹介させていただきます。

本研修プログラム5つのポイント

■ポイント①： 生活の臭いがする家屋に住み、“もうひとつの日常”を営む

宿泊地は、富山県氷見市の町屋。生活者になるため、氷見市に在住されている方々と同じ環境に滞在していただきます。ふだんと違うもうひとつの日常生活を送りつつ、地域社会が編み上げてきた生活文化や習慣、なりわいを体感してもらいます。また、研修プログラムでは、参加者同士の対話なども重視しているため、1部屋にお二人お住まいいただく形になります。(同性の方が同部屋です)

【参考】 氷見市

富山県の西北、能登半島の東側付け根部分に位置しています。多くの幸をもたらしてくれる「青い海」と「みどり豊かな大地」を有し、人の心を引きつける自然の恵みに包まれています。日本海側有数の氷見漁港には、四季を通じて156種類もの魚が水揚げされ、初夏の「マグロ」、冬の「寒ブリ」、そして「氷見いわし」は広辞苑にも掲載されるほど有名です。また、日本ではじめて発見された洞窟住居跡「大境洞窟」や万葉の歌人大伴家持ゆかりの史跡など、歴史のロマンにも満ちあふれています。(氷見市ウェブサイトより)。「おらっっちゃ創生」や「ぶり奨学プログラム」など、地方創生の先駆的モデルを実践する地域です。



■ポイント②： 自分から湧き起こる感性を大切に（デジタル機器の使用禁止、手書きスケッチ、肩書きを忘れる）

自分の中から湧き起こってくる感情や感性を大事にするため、研修期間中は緊急時を除いて、インターネット・デバイスの使用は禁止です。デジタル環境から距離を置きます。研修当日「生活日記」をお渡しし、気づきや発見はそのノートに手書きで記録・スケッチしていただきます。

また、社会的役割や属性、組織の事情や都合をいったん忘れていただくワークに取り組んでいただきます。

■ポイント③： 生活素材や他者を「鏡」に、自分の心根を浮き彫りにする

生活者感性を掘り起こすには、自分の心根を映し出してくれる「鏡」が必要です。地域の「生活素材」を使いながら自分を語る、本研修の仲間や地域の多様な方々との対話をする…といった、自分の心根を発見するキッカケとなるワークを行います。

■ポイント④： 「じぶん寿司」の創作とプレゼンテーションで、“自分”を表現する

「食」は五感（味覚・視覚・臭覚・聴覚・触覚）をフルに使う生活行為であり、誰もが行う日常習慣です。食との向き合い方が変わってくると、日々意識すること、発想も変わってきます。

今回は日本人が古くから引き継ぎ、創作性が高い「寿司」がテーマです。氷見生活で発掘した生活者感性（五感）をもとに、あたらしい自分を表現する方法として、氷見の食材を活用して、「じぶん寿司」づくりにチャレンジしていただきます（ガイド・サポートをしますので、調理経験ない方でも大丈夫です）

※日本各地の郷土寿司を伝承する寿司職人・岡田大介さんがファシリテーターを務めます。

DAY5 のおわりには、これからの暮らしや仕事の中で、自分が取り組んでいきたいことをプレゼンテーションしていただきます。（これからの自分）

■ポイント⑤： 地域は「自らの生活者感性を掘り起こすことができる場所」になる

地域は「実感」の宝庫です。そういった地域でのワークに取り組むからこそ、いつもとは違う暮らしの五感を開くことができ、「ひとりの生活者としての感性（生活者感性）＝創造性の源」を呼び起こし、磨きあげることができます。自分の生活者感性を磨くキッカケとなった地域とは、おそらく、これからも、自らの生活者感性を掘り起こすことができる、自分にとって大切な場所として付き合っていくことができることでしょう。

なお、こういったつながりが増えることは、地域にとっては、一過性の観光でも、いきなりの移住でもない、「あたらしい人の流れをつくる」、そういった地方創生のキッカケにもなります。

お申込み方法

【第一次締め切り】 2017年2月5日（日）

お申込みは、博報堂生活者アカデミー運営事務局 宛(seikatsusha-academy.mail@hakuodo.co.jp) のメールで受付致します。メール本文内に「(1) 氏名(フリガナ)、(2) 性別、(3) 生年月日、(4) 出身地、(5) 所属先名、(6) 仕事内容、(7) 志望動機」をお書きのうえ、ご送付よろしくお願ひします。

なお「(7) 志望動機」では、「自分の興味関心のあるキーワードを3つ挙げて、その3つのキーワードを使って本研修プログラムに期待すること、研修を受けたい理由」をお書きください。文字数は自由です。

メール送付でお申し込み完了ではございません。応募多数の場合は抽選となります。抽選後、博報堂生活者アカデミー運営事務局からメールにて詳細をご案内致します。あらかじめご了承の程よろしくお願ひします。

参考

【企画実施】

博報堂生活者アカデミー

博報堂の企業哲学である「生活者発想」をベースに、さまざまな講座やトレーニングプログラムを開発し広く世の中に提供していく、イノベーション人材育成のための社会人教育機関。コンセプトは「発想体質を、つくる。」

<http://www.hakuhodo-seikatsusha-academy.jp/>

博報堂イノベーションデザイン

企業や社会のイノベーションを支援するための専門チーム。未来洞察や、機会発見のためのフィールドリサーチ、コンセプト立案、プロトタイピングなど、企業の製品・事業開発や社会の課題解決に貢献しています。

<http://innovation-design.jp/>

【監修】

慶應義塾大学 SFC 研究所（社会イノベーション・ラボ）

慶應義塾大学 SFC 研究所は、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科、大学院健康マネジメント研究科、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部の 2 研究科 3 学部の附属研究所として、21 世紀の先端研究をリードする研究拠点として活動しています。慶應義塾大学 SFC（湘南藤沢キャンパス）における教育・研究活動と、産官学および国内外の活動との双方向の協調関係を育みながら、諸科学協調の立場から先端的研究を行い、社会の発展に寄与することを目的としています。SFC 研究所に設置された「社会イノベーション・ラボ」では、社会をよりよい方向に変えるための「社会イノベーション」のあり方やその実践モデル、支援ツール、科学技術イノベーションと社会イノベーションの相乗効果の実現モデルなどの研究・開発に取り組んでいます。

【協力】

氷見市 IJU 応援センター・みらいエンジン

氷見市への移住・定住に関する窓口を一本化し、支援する専門組織（2016 年 11 月設立）です。町家の交流拠点「まちのタマル場」をベースに、移住のキッカケづくり、具体的な移住支援、定住にむけたまちづくりを、市民や関係団体と連携しながら展開しています。スタッフは全員が県外出身者です。この組織は、氷見市から委託された、場づくりとまちづくりのコーディネートを行う会社（株式会社地域交流センター企画）が運営しています。移住を考えている方の気持ちに寄り添い、様々な可能性と一緒に考えることを大事にしています。

<http://himi-iju.net/>

氷見市地域おこし協力隊

三大都市圏をはじめとする都市地域等から氷見市へ移住し、地域課題の解決に取り組みつつ、起業実践を目指す人材です。業務内容は隊員毎に異なり、移住定住・空き家活用、農業・六次産業化、情報発信・ブランディングなど様々なテーマがあり、行政のほか企業や各種団体、市民と協働しながら地域おこしに取り組んでいます。現在、氷見市地域おこし協力隊は第 1 期生 6 名（平成 27 年度着任）、第 2 期生 9 名（平成 28 年度着任）の計 15 名が活動しています。

<http://himiokoshi.com/>

岡田大介（酢飯屋）

寿司職人歴 20 年（2017 年現在）。東京都文京区江戸川橋駅近くにて、完全紹介制・完全予約制の寿司屋『酢飯屋（すめしや）』を経営。ランチとディナーで角度の違うお寿司を提案。同建物内にて 14 時から 17 時まで不定期営業している『suido cafe』では、日本各地の作家さんの器で楽しめるスイーツや自家製ジュースなどもご用意。誰でも気軽に楽しめるカフェとして営業しています。店舗で取り扱う中で、特別オススメの食材は、『神楽市場（かぐらいちば）』としてオリジナルに商品化し、店頭販売、インターネット販売なども行っています。店舗の一角では、陶器や鉄、木工、ガラス、漆の作家をはじめ、絵画や服飾、雑貨などの展示販売をする『水道ギャラリー』も展開しています。その他、都道府県や市町村などをテーマにした、『酢飯屋バーベキュー』。2012 年時点で 60 回を超え、日本各地の地域 PR 活動の手伝いもしております。また、日本各地の郷土寿司を習い、継承させていただきに行くことをライフワークとし、書籍としてまとめております。「やりたいことは、やってみる」。それが岡田大介の基本理念です。

<http://www.sumeshiya.com/>

【総合監修】

玉村雅敏（慶應義塾大学 総合政策学部 教授）

慶應義塾大学総合政策学部卒業。同大学院政策・メディア研究科博士課程、千葉商科大学政策情報学部助教授等を経て現職。博士（政策・メディア）。内閣官房地域活性化伝道師、新潟市・横須賀市・氷見市・天草市・鈴鹿市・市原市・長島町などのアドバイザーや専門委員を兼務。専門分野はソーシャルマーケティング、公共経営など。実践活動として、自治体の地域戦略や経営システムの構築、企業のソーシャルマーケティング戦略や CSV 戦略の立案・評価、生活価値や幸福度の評価手法の開発などを手がける。主な著書：『ソーシャルパワーの時代—「つながりのチカラ」が革新する企業と地域の価値共創(CSV)戦略』（産学社 2016 年 編著）、『東川スタイル—人口 8000 人のまちが共創する未来の価値基準（スタンダード）』（産学社 2016 年 編著）、『地域を変えるミュージアム—未来を育む場のデザイン』（英治出版 2013 年 編著）など。

【研修企画プロデューサー】

星出祐輔（株式会社博報堂 博報堂生活者アカデミー）

慶應義塾大学環境情報学部卒業。専攻はコミュニティマネジメント。企業のコミュニケーション・メディア戦略、ブランディング戦略などの業務に従事後、博報堂生活総合研究所で生活者研究を行なう。カフェのプロデュース、生活者起点の街づくりプロジェクト立ち上げなども行なう。現在は、博報堂生活者アカデミーに所属。身体性をテーマに街づくり・演劇・旅行・食などを切り口に授業開発・講師を務める。

遠藤礼奈（株式会社博報堂 博報堂イノベーションデザイン）

多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。アートディレクターだから出来るコンサルティングに取り組み、「何をデザインするかをデザインする」スタイルを得意としている。広告コミュニケーションで鍛えた「生活者を自分に憑依させる力」とアートディレクション力で、「人の心を動かす、大きい意味のデザイン」を目指す。実は国内外受賞多数。日本マーケティング協会などで講師も務める。

大家雅広（株式会社博報堂 博報堂イノベーションデザイン）

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了。企業のマーケティング・ブランディング戦略、新商品・サービス開発、イノベーション支援、地方自治体支援などの業務に従事。現在は、博報堂イノベーションデザインに所属。法政大学社会学部「コミュニケーション・デザイン論」、宣伝会議ファシリテーション養成講座にて講師を担当。

横田浩一（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授）

早稲田大学卒業後、日本経済新聞社に入社。2011年同社を退職後、株式会社 横田アソシエイツを設立し代表取締役に就任。2011～2014年流通科学大学商学部特任教授。2015年～慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授。2011年～公益社団法人日本経済研究センター特任研究員。企業のブランディング、マーケティング、CSV、HRM、イノベーションなどの戦略立案と共に、地方創生における仕事づくりや官民連携に携わる。主書（共著）に『明日はビジョンで拓かれる：長期経営計画とマーケティング』（2015年碩学舎）、『愛される会社の作り方』（2014年碩学舎）、『ソーシャル・インパクト～価値共創（CSV）が企業・ビジネス・働き方を変える』（2014年産学社）など多数。

以上